



DEN

No.9

2013.4.30発行

作業療法を伝える — NEWS&COMMUNICATION

心豊かに作業療法



CONTENTS

- | | | | |
|---|--|----|--------------------------------------|
| 1 | 活動取材ノート
第16回大分県作業療法学会
大分市春日地区での取り組み
春日まつり
豊後大野市ふるさとまつり | 10 | 教えて！作業療法 |
| 3 | インタビュー / 永松 謙一氏 | 11 | 施設紹介 / 株式会社 空色 (SOLA)
こどもデイサービス夢色 |
| 5 | まんが作業療法物語 ~こども編~ | 12 | 東日本大震災 被災地の今 — 第3報 — |
| | | 13 | 以心DEN心 — 作業療法コラム — |
| | | 14 | 活動報告 |

第16回大分県作業療法学会

平成25年2月3日(日)、ビーコンプラザで第16回大分県作業療法学会を開催しました。今回は「見つめ直そう！作業の力～自立(自律)生活を支援する作業療法～」というテーマの下、特別講演やシンポジウム、一般演題の発表、福祉用具の展示を行いました。

特別講演では、鹿児島大学医学部保健学科教授の岩瀬義昭氏より、「生活行為向上マネジメント」についてご講演いただきました。生活行為向上マネジメントとは、高齢者や障害者が‘介護される人’から‘主体的で積極的な生活をする人’になるために、できなくなった作業を方法や環境の工夫にてできるよう支援し、生活への意欲を高めていく方法です。個人の能力を理解し、その方にとって意味のある作業を見つけ、その実現を通し一人ひとりの生活を支援することの重要性を再確認できました。引き続き行われたシンポジウムでは、様々な領域で生活行為向上マネジメントを使用し、実際の生活支援を行った事例を通して、「作業をする

ことで人は健康になれる」ことを実感しました。

午後からは口述・ポスター発表が活発に行われました。今回のテーマの“自立(自律)”には生活や趣味の自立、家事や仕事の自立、自己の意志や規律をコントロールするなどの様々な意味合いが含まれており、それぞれの目指す自立(自律)への取り組みについて学ぶことができ、今後も自立(自律)を目指すための作業療法により一層取り組まなければと感じた学会でした。



大分市春日地区での取り組み ～地域に密着し、地域から必要とされるために～

当協会では、“地域に密着し、地域から必要とされる存在”になれるよう、様々な作業療法(士)の啓発・普及活動を行っており、その一環として「作業療法の日 公開講座」や「西春日サロン出張講座」を実施しました。

9月25日が「作業療法の日」であり、当協会は毎年この時期に公開講座を開催しています。昨年10月の公開講座には、当協会の事務所がある大分市西春日地区の方13名にご参加いただきました。また、地域にお住まいの高齢者が、誰でも気軽に、楽しく参加できる交流・ふれあいの場である“サロン”では、レクリエーションや教養講座、介護予防メニューなどの様々な取り組みが行われており、今回、大分市西春日地区のサロンに協力させていただく機会を得ました。12月に行われたサロンには16名の方が参加されていました。ともにテーマは「健康寿命を延ばすために～いつまでも動ける心と体づくり～」と題し、血圧測定などの健康チェック・健康に関する講演・ストレッチ・筋力増強運動を行い、本誌『伝-DEN-』も配布しました。

参加された方からは、「これまで以上に健康な生活を意識していきたい」「体をもっと動かすように意識したい」「何か困ったときは大分県作業療法協会へ相談します」とのご感想をいただきました。また、「年間を通じて時々開催して欲しい」とのご要望をいただき、継続的な事業展開と支援をさせていただく重要性を感じました。

今後も継続して公開講座や出張講座を行い、県民の皆様が日々健康に過ごせますようお手伝いさせていただきます。皆様からのご連絡をお待ちしております。



● 春日まつり (大分市)

平成24年11月11日(日)、大分市立王子中学校で行われた春日地区のイベント「春日まつり」に参加させていただきました。当日はあいにくの雨で体育館での開催となりましたが、お年寄りから幼い子どもさんまで、幅広い年齢層の方々が参加されていました。当協会のブースでは、昨年引き続き、作業活動体験として旗作りを行いました。親子連れの方々を中心に多くの方に参加していただき、「楽しいね」や「気持ちが落ち着くから良いね」などと大変好評でした。また、本誌『伝-DEN-』と協会パンフレットを配布し、作業療法の魅力や日々の取り組みなどを伝えることができました。ぜひ、来年も参加させていただきたいと思います。



● 豊後大野市ふるさとまつり

平成24年11月11日(日)、豊後大野市大原総合体育館で行われた豊後大野市のイベント「ふるさとまつり」に参加させていただきました。雨天にもかかわらず、当協会のブースは約130人の来場者でにぎわいました。こちら旗作りを通して、作業療法の啓発を行いました。多く子どもたちが興味を持ち、参加してくれました。また、高齢者の方をはじめ幅広い年齢の方々から物忘れなどの心身の変化やリハビリの方法についての相談がありました。これからも県内の各地域の方々に作業療法をもっと身近に感じていただき、気軽に相談していただけるような存在となれるよう、作業療法の魅力を伝えていきたいと思ひます。



西春日サロン出張講座

お一人おひとりの「夢」に 近づくような作業療法を

インタビュー

医療法人 謙誠会

博愛病院 博愛こども成育医療センター

作業療法士 永松 謙一 氏

Nagamatsu Kenichi



博愛病院のこども成育医療センターでは、幼児期から青年期の自閉症や注意障害などの方々に対して、大きく分けて4つのサービスを提供しています。一つ目は「児童発達支援」という就学前のお子さんが通所する福祉サービス、二つ目は「放課後等デイサービス」という主に学校の放課後に利用する福祉サービス、三つ目は「精神科デイケア」、四つ目は大分市の委託事業で、成人の重症心身障害の方を対象とした「日中一時支援」です。

同センターにおける作業療法士の取り組みを聞いてみました。

Q. こちらの作業療法士の役割を教えてください。

A 私は、児童発達支援管理責任者として、児童福祉である「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」では、集団活動での目標や支援方法などの個別支援計画を作成しています。その計画を基に、精神保健福祉士や臨床心理士、保育士、指導員等の他職種と連携しチームとなり、個別のプログラムをお子さんたちに提供しています。また、当院の場合は、芸術大学を卒業した芸術指導員やパティシエなど医療・福祉関係以外の専門家もおり、こうした方に対して、こういった関わり方が必要であるか等を助言していくことも大切な役割の一つになっています。

Q. どのような作業療法を実施していますか？

A 児童発達支援では、集団遊びや個別の遊びなど、遊びの中で多くの経験を得てもらう「遊び込み」[※]を通して、手先の細かな動作を練習したり、集団での他のお子さんとの関わり方などを学んでもらっています。また外に出て散歩をしたり、自然と触れ合ったりという活動も行っています。

放課後等デイサービスでは集団の中で順番を守るなど、社会でのルールを学ぶ要素を、さらに多く取り入れた活動を提供しています。

精神科デイケアでは、アート教室、おやつ教室、アウトドア教室、パソコン教室、社会に適応

※ 遊び込みとは

遊びを通じて、自分の目で見て、触れて、体で覚える経験をさせ、さらに集団生活の中でも他者への関わり方を学ぶことです。

するためのコミュニケーションを学ぶCST(コミュニケーション・スキル・トレーニング)教室を常時開いています。アウトドア教室では、屋外の大きな敷地で農耕や園芸活動を中心に行い、法人内の就労支援部門とも協力し、より多くの作業を提供しています。例えば、就労支援の活動では、種から育てあげた苗を持ってきて植えたり、収穫した野菜を販売したり、厨房で料理したりと、様々な形で就労支援部門の指導員や厨房スタッフなどと協力して進めています。また、パソコン教室では表計算ソフトのマスを利用してドット絵を作るなど、ゲーム要素を取り入れ、基本的な操作の習熟を目指しています。私が担当しているパソコン教室では、お子さんの興味・関心を活かすために教材や見本を作って導入をスムーズにし、その日に完成させて必ず成功体験を得られるようにしています。



▲パソコン教室



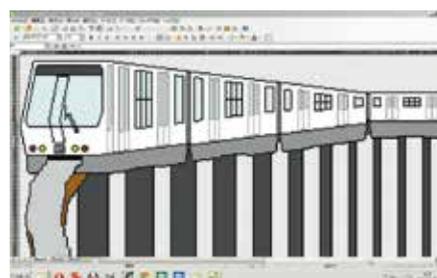
▲アート教室

Q. 作業療法を提供する上で心がけていることはなんですか？

A お子さんの主体性を引き出せるよう、生活環境や生育歴、興味関心を知り、その方に合った作業療法を提供するようにしています。また、お子さんやご家族の方々にはもちろんですが、他職種の方にもできるだけわかりやすく伝え、情報を共有するよう心がけています。

Q. 作業療法を一文字で表すとなんですか？

A 「夢」だと思います。当センターを利用されているお子さんだけでなく、やりたいことと現実とのギャップをもたれているすべての方に対して、やりたいことを実現可能な「夢」へ方向転換することが作業療法士に求められていると感じています。私も「夢」を与えるとっては大げさですが、お一人おひとりの「夢」に近づけられるような作業療法を提供したいと思っています。



▲ドット絵



勤務先



事業所名 医療法人謙誠会 博愛病院
博愛こども成育医療センター

所在地 大分市野田1111番地

利用者数 130名程度／日

リハビリ職員数 作業療法士4名

プロフィール



ながまつ けんいち
永松 謙一

平成15年3月 九州リハビリテーション大学 卒業

平成15年4月 博愛診療所 入職

平成22年9月 博愛こども成育医療センター 勤務

…現在に至る

まんが 作業療法物語

～こども編～

遊びを通してできることをふやそう



Aくんは、4歳のときに精神遅滞(知的障害)と診断され、
落ち着きのなさや手先の不器用さもみられたため、
作業療法を行うことになりました



Aくん、今日から
一緒に頑張ろうね!

では、まずAくんの好きなことや
苦手なことをみていきましょう

よろしく
お願いします

まず、Aくんの様子を観察します

Aくん、
滑り台で遊んでみようか

あっ!

バランスを取ることが苦手で
いつもハラハラします
夢中になると、
周りも見えなくなるようで…

その後もトランポリンやブランコなど
いろんな遊具で遊びましたが、こけたり、
ぶつかりそうになったりと目の離せない状態でした





ブランコやトランポリンなどで全身を使った運動を行い、
バランスの取り方や力の入れ方など
体全体の使い方を学習していきました。



そのほかにも、工作やビーズ通し、ゲームなどをおして
道具の使い方や指先の細かい動き、
両手を一緒に動かしていくことを練習しました。

これらのことを繰り返し行っていくうちに、
Aくんは苦手だったことが少しずつ上手になっていきました。



ボタンなどの更衣動作をイメージして、
貯金箱に大小様々なコインを入れたり、
小麦粉粘土からおはじきを取りだす遊び



そして、洋服のボタンも一人で
とめることができるようになりました。



最近では、プリンやカステラを、
スプーンやフォークで上手に食べられるようになって
手づかみや食べこぼしも減ってきました。

1年後……

5歳になったAくんは小学校入学に備えて、
字を書く練習を始めました。



はじめのうちは鉛筆を強く握りこんで持っていましたが、
鉛筆の太さやグリップなど少し道具を工夫し
握り方を練習することで、力を抜いて字を書けるようになりました。



細かく鉛筆を動かすことができるようになり、
筆圧も安定し、線もぶれずに
書けるようになりました。



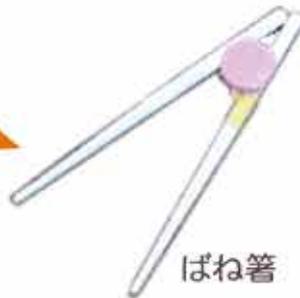


それから、お箸の練習も取り入れました
 まずは、指にお箸を固定できるリングのついた箸から始め、
 指先を細かく動かす練習をしました

箸を変えていき少しずつステップアップ



リング付き箸



ばね箸



お箸にゴム+ビーズを付けたもの

お母さん、
今日はぬり絵が上手にできたんですよ

すごいねAくん!

保育園の先生も、
ぬり絵が上手になっていると驚いてました
最近はお箸の練習をしていると話したら、
様子を一度見てみたいと言って下さっているのですが、一緒に来てもいいですか?

ぜひ、
いらしてください

今はこのようなお箸
(指を入れる穴が3つあるもの)を
使って練習をしています

驚きました!
こんなにたくさん
お箸の種類があるんですね
これ、保育園でも
使ってみたいです

ほかにAくんが使いやすい道具や関わり方など、
保育園でもできることがあったら
教えてもらってもいいですか?

はい! Aくんはいろいろなことを吸収して、
どんどんできることが増えています
こちらこそ保育園での様子を教えてください

作業療法で練習した箸使いや
文字書きを家や保育園でも
チャレンジしてみました
上手にお箸が使えましたよ!

この前公園に行ったときには、
「ママ!見て見て!!」と楽しそうでした
私も少し遠くから
見守ることができるようになりました

保育園でも、先生がたくさん褒めてくれるので
毎日行くのが楽しみのようです

まだお友達と一緒に遊ぶことは少ないですが、
順番を守ったり、おもちゃの貸し借りをしたりと
我慢ができるようになりました

前よりもずいぶんいろいろなことが
できるようになってきたAくん
来年は、いよいよ小学校へ入学します

今後、作業療法では、手先を使った細かい作業や
体全体を使う活動の練習だけでなく
学校生活に合わせて、
授業中席を立たずに集中して取り組むことや

集団の中でお友だちと
うまくコミュニケーションがとれるよう練習し、
将来の生活につなげていきます

おわり

小児期の作業療法では、一人ひとりのお子さんの困っている様子や状況を様々な方向から分析し、課題設定や訓練を行っていきます。また、目の前の課題だけでなく、将来の課題も見据えて、生活に必要な能力を「遊び」を通して獲得することを目指します。お子さんが楽しみながらできることを増やしていくことを大切にし、それぞれの成長に合わせた支援を行います。



遊びを通じて、生涯にわたる支援を実現します

子どもにとって“遊び”は欠かせないものです。遊びを通して「見る・触る・投げる・跳ねる」など、たくさんの感覚や運動の情報を集めて体を自由に操ることを学んでいます。また、お友達との遊びの中で、コミュニケーション能力や社会性も培っていきます。

遊びが身体にもたらす効果

揺れたり、回転したりする遊具で全身を使った遊びを行い“体の基礎”を作ります。粘土やおもちゃなどの指先を使った遊びでは“手の細かい動き”を学習します。



道具や環境の工夫

お子さんの能力を最大限に活かせるよう**道具の選定**や**周囲の環境を調整**します。



さらに、その方の能力を最大限に生かし、生活能力を高めるよう生涯を通じて支援します。



生涯を通じた生活支援・家族支援

乳幼児期
個人+家庭生活への支援

- 機能訓練
- 日常生活動作訓練
- 集団活動支援
- 家族への助言

など

学齢期
個人+家庭+学校生活への支援

- 機能訓練
- 日常生活動作訓練
- 集団活動支援
- 家族への助言
- 就学支援

など

青年期
個人+家庭+社会人としての支援

- 機能訓練
- 日常生活動作訓練
- 集団活動支援
- 家族への助言
- 就労支援
- 住環境の提案

など

高齢期
青年期+加齢によって生じる問題への支援

- 機能訓練
- 日常生活動作訓練
- 集団活動支援
- 家族への助言
- 住環境の提案

など

生活支援

更衣や調理など身の回りの活動を支援します。



就学・就労支援

個人の特性を活かせるよう就学・就労に必要な活動を取り入れます。



生活する能力を高めるため、日常生活に必要な動作や、集団生活が円滑に行えるよう支援します。最終的には**自立(自律)した生活の実現**が目標です。その方の潜在能力を引き出し、苦手な所は補い、生活していく力をサポートします。



株式会社 空色 (SOLA)
こどもデイサービス 夢色



所在地：大分市横田1-1-1 薬師寺ビルⅡ 1F
 電話：097-578-6698
 事業種別：放課後等デイサービス、児童発達支援
 利用定員：10名
 主な対象：知的障害、広汎性発達障害、染色体異常、
 肢体不自由など
 職員数：5名（うち作業療法士1名）
 関連施設：さくら・介護ステーションうへの
 コレクティブハウス レインボーヴィラ

当事業所は、昨年7月に大分市東部の大在地区で開設し、様々な障害のある小学生から高校生までの子どもたちを対象とした放課後等デイサービスを実施しています。放課後等デイサービスは、児童福祉法に基づく障害児通所支援の一つで、平日は学校下校後に、土曜日や夏休み等の長期休暇時には朝からご利用いただいています。大分県立大分支援学校から車で5分という立地にあるため、子どもたちの多くは特別支援学校の児童・生徒ですが、普通小学校に通っているお子さんもいます。また、今年4月に開始した児童発達支援は、未就学のお子さんを対象としています。

当事業所では、いわゆる個別訓練は行っていません。働いている親御さんも多いため、まずは、障害のあるお子さんとご家族が地域で安定して生活できるよう支援することが必要と考え運営しています。比較的ゆっくりとしたスケジュールの中で、集団活動や自由あそびを通して、人や物とのかかわりを学びながらできることを増やし、将来の生活につながるような支援を心がけています。

また、当社では、利用希望者の増加に合わせ、第二事業所の開設準備を進めています。今後は、お子さんの学習を支援する場や成人の方が働くところ、難病をお持ちの方が住む場所など、地域で生活する方々が必要としているにもかかわらず、十分に確保されていないものを提供していければと考えています。



事業所内



いす取りゲーム



リースづくり



カルタとり



私たちが地域生活を応援します



まつぼっくりツリー



凧づくり



芋掘り(野津町にて)

将来の「夢」に向かって
 がんばりましょう!

記事担当者

高森 聖人



東日本大震災

被災地の 今

第3報

大分県作業療法協会 副会長
㈱ライフリー 代表取締役

佐藤 孝臣

未来へ

今回は、この悲劇の中で未来に向かって進んでいる方の紹介をします。南相馬市へ30年前に嫁いだAさん、職場のスタッフの叔母さんにあたる方です。南相馬市での支援の間に、何万人という被災者の中でAさんに会うことができたら奇跡だと思っていました。ところが、仮設住宅の集会所でリハビリ教室を開催していると、ある参加者の方から「私の友達も生まれは大分なのよ」と声を掛けられました。その友達の名前を聞くと、なんとAさん。偶然にもこんな奇跡があるのだと思い、ぜひお会いしようとしたのですが連絡が取れませんでした。その後も他の地区へ支援に行くことになり会えずじまいで、大分に戻った後、スタッフから「本当にお会いしたかった」と残念がられていたと聞きました。ところが、1ヶ月後にAさんが大分に帰省し、私の職場にも寄ってくださったのです。初めは、ようやく会えたこと、あの震災の爪痕を眼のあたりにしたばかりで「よく生きていてくれました」との思い、家族を南相馬市に残したままわざわざ私に会いに来てくださったことが私の胸を強く打ち、言葉が出ませんでした。Aさんは、私にたくさん話してくださいました。震災当時のこと、震災直後のこと、そして今後のことを。私が「放射能の影響もあるし、大分へ帰ってくる予定はないのですか」と尋ねたところ、「それも考えましたが、私は南相馬市へ嫁いで30年、大分より長くなりました。実は私の夫は大工をして南相馬でたくさん家を建ててきました。この技術を活かしてまた南相馬市にたくさん家を建て、復興に残りの人生を捧げます」と満面の笑顔で語ってくれたのです。私は感動とともに自分の質問がなんと愚問だったのかと恥じました。Aさんは力強く、未来へと歩んでいるのです。

人間が発揮する「困難を解決すべきすばらしい力」は、必ず未来を創ることができると思います。そして、この力を信じて日本の復興を願っています。あの日から2年経った今、震災の話題を耳にすることが減ってきています。しかし、私は一步一步確実に未来に向けて歩んでいる方々を忘れず、様々な支援を継続していきたいと思います。

今回で「被災地の今」は最後ですが、少しでも被災地のことがお伝えできたのであれば幸いです。ご覧いただきありがとうございます。

母の言葉に想う

大分中村病院

古原 岳雄



私の母は数年前にパーキンソン病になり、現在、実家(宮崎市)の近くにあるデイケアのお世話になっています。

帰省したある日、私が通所時の様子を母に尋ねると、小さな声で、

「先生達がみんな良くしてくれて本当に有難いんだけど、あんまり行きたくない…」とポツリ。理由は歌を歌わせられるからだと言うのです。母は昔から人前で何かをさせられるのが大の苦手でした。

私が、「無理に行かんでもいいんでえ…」と軽く言うと、

「でも行く！行かんとお父さんが心配するわあ～」と母は言いました。

「だったら行くだけ行って、歌は歌わんかったらいい」と私が続けると、

「歌わんと先生が心配するわあ～」と母。

私は途中からおかしくなって笑っていたのですが、同時に、しばらく忘れていた母の人柄に直面し、ハッとしました。思い返してみると、母は昔から他人に心配や迷惑をかけることを嫌い、人に我慢させるくらいなら自分が我慢しているほうがずっと心の平安を保てる人だったのです。

「歌を歌わせられる苦痛より、歌わないで先生に心配をかけるほうが辛い。だから行く…」

そんな母の小さな決心をどこか微笑ましく、肯定的に捉えられたのは私が作業療法士であるからなのかは分かりませんが、母が納得しているのなら、それでいいと思えたのです。

「人に気を遣う」という母らしさがずっと続くこと、そして、母が気を遣いたいと思える誰かが、これからも母の近くに現れてくれることを願わずにはられません。そして私も、「その人らしさ」という言葉の意味をもっともっと深く考えていかねばならないと思っています。



活動報告 2012年10月 ▶ 2013年1月

啓発普及活動

作業療法の日 公開講座 来場者数：13名 1ページで詳しく

日時：平成24年10月14日(日) 10:15～11:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：健康寿命を延ばすために ～いつまでも動ける心と体づくり～
講師：児玉 隆典(事業部長/デイスサービス薬 横尾センター)
甲斐 裕介(事業部副部長/デイスサービスセンター薬)

春日まつり 作業療法コーナー設置 2ページで詳しく

日時：平成24年11月11日(日) 10:00～14:30 大会規模：約500名
場所：大分市立王子中学校 体育館 ブース来場者数：100名
内容：旗作り、相談コーナー、パンフレット配布

第2回豊後大野市ふるさとまつり 2ページで詳しく

作業療法コーナー設置 大会規模：約2000名
日時：平成24年11月11日(日) 9:30～15:30 ブース来場者数：130名
場所：豊後大野市大原総合体育館
内容：作業療法体験、相談コーナー、パンフレット配布

西春日サロン 作業療法出張講座 1ページで詳しく

日時：平成24年12月9日(日) 10:00～11:30 来場者数：16名
場所：西春日公民館
内容：健康寿命を延ばすために ～いつまでも動ける心と体づくり～
講師：甲斐 裕介(事業部副部長/デイスサービスセンター薬)

研修会等

【学術事業】

学術技能研修会 II 参加者数：14名

日時：平成24年10月2日、16日、30日(火) 19:30～21:00
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：研究法 基礎～応用まで
講師：篠原 美穂(湯布院厚生年金病院)

学術技能研修会 III 参加者数：21名

日時：平成24年10月14日(日) 10:00～12:00
場所：コンバルホール
テーマ：病院、施設で作業療法を理解してもらうには
～なるほど！作業療法の管理運営のコツ～他部門との連携
強化につながるアピールと交渉術～
内容：シンポジウム
講師：杉木 知武(中津支部長/川島整形外科病院)
山本 正修(別枠速見支部長/鶴見台病院)
中村 雅之(大野支部長/ニコニコ銘水苑)

学術技能研修会 IV 参加者数：74名

日時：平成24年10月28日(日) 10:00～15:00
場所：ニューライフプラザ
テーマ：もっと知りたい発達障害～二次障害の予防とその対応～
内容：発達障害の総論、支援方法について
講師：岩永 竜一郎(長崎大学医学部保健学科 准教授)

学術技能研修会 VII 参加者数：39名

日時：平成24年12月2日(日) 9:30～12:30
場所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」
テーマ：生活行為向上マネジメント実践報告
内容：症例発表5演題、シンポジウム
コーディネーター：平野 政治(学術研修部長/明和記念病院)

【教育事業】

研修会講師養成道場⑥ 参加者数：9名

日時：平成24年10月4日(木) 19:30～21:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：課題テーマ発表会
コーディネーター：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
工藤 友治(教育研修部長/大分下郡病院)
大田 翔子(湯布院厚生年金病院)
洲上 祐亮(湯布院厚生年金病院)

臨床実習指導者育成道場③ 参加者数：9名

日時：平成24年10月11日(木) 19:30～21:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：演習「事例検討①の指導案発表・フィードバックと討論」
コーディネーター：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
工藤 友治(教育研修部長/大分下郡病院)
梅田 大樹(衛藤病院)

臨床実習指導者育成道場④ 参加者数：8名

日時：平成24年10月25日(木) 19:30～21:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：講義「臨床実習指導方法論②臨床実習指導者の役割および
資質について」
演習「事例検討②」
講師：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)

臨床実習指導者育成道場⑤ 参加者数：8名

日時：平成24年11月15日(木) 19:30～21:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：講義「医療メディエーションと教育法の視点から臨床実習
指導者の役割を考える」
講師：山田 康二(常務理事/大分岡病院)

臨床実習指導者育成道場⑥ 参加者数：8名

日時：平成24年11月22日(木) 19:30～21:30
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：演習「事例検討②の指導案発表・フィードバック」
コーディネーター：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
工藤 友治(教育研修部長/大分下郡病院)
梅田 大樹(衛藤病院)

現職者共通研修 III 参加者数：36名

日時：平成24年11月25日(日) 9:30～12:40
場所：大分県立社会教育総合センター
内容：①作業療法の可能性
講師 日隈 武治(副会長/湯布院厚生年金病院)
②日本および世界の作業療法の動向
講師 石橋 英恵(国際医療福祉大学)

現職者共通研修 IV 参加者数：34名

日時：平成25年1月20日(日) 9:30～15:00
場所：大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科棟
内容：①保健・医療・福祉と地域支援
講師 佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
②事例検討方法論
講師 彌田 剛(藤華医療技術専門学校)
③エビデンスと作業療法実践
講師 矢野 高正(財務部長/湯布院厚生年金病院)

現職者選択研修(老年期障害領域) 参加者数：71名

日時：平成24年10月21日(日) 9:30～16:40
場所：ピーコンプラザ 中会議室
内容：総論 高齢社会の状況・変遷・老年期に関わる施設等について
①老年期疾患について
講師 有村 正弘
(宮崎県作業療法士会 副会長/さくら苑新館 施設長)
②介護老人保健施設におけるOT
講師 古川 直美(介護老人保健施設 岡の苑)
③在宅の場におけるOT・環境調整
講師 児玉 隆典(事業部長/デイスサービス薬 横尾センター)

大分県作業療法協会の ロゴマーク&キャッチフレーズが 完成しました！



心豊かに
作業療法

原案：尾山泰宏（宇佐病院）

ロゴマークはOITA（大分）の文字の中にOT（作業療法）の文字を入れこむことで、“地域に密着し、地域から必要とされる存在”になれることをイメージして作っています。

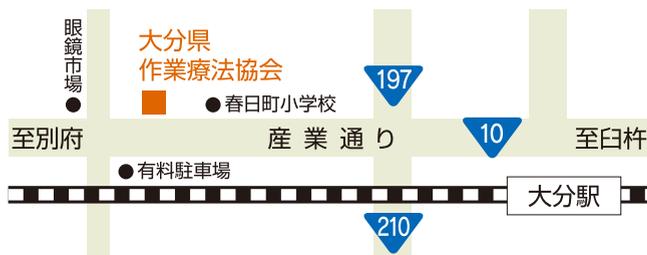
また当協会のイメージカラーである黄色を背景に選択しています。

これから当協会ホームページやイベント、リーフレットなど、さまざまな場面でお目にかかると思いますので、末永くご愛顧の程よろしくおねがいします。

当協会員と一般の方に長く愛されるロゴマークとキャッチフレーズを目指します。



リハビリテーションのことや、作業療法のことなどで分からなかったり、お困りのことがありましたら、右記までご連絡ください。



公益社団法人 大分県作業療法協会

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

<http://www.oita-ot.com/>